

令和8年度「全国学力・学習状況調査」本校の結果について

南丹市立美山小学校

令和8年4月23日（木）に6年生で実施した令和8年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。本校で分析をした結果、本校児童の傾向が概ね把握できましたのでお知らせするとともに、今後、本校では、成果と課題を受けて、改善活動に取り組み、児童に「確かな学力」を身につけさせていきたいと考えています。

【1】概要について

実施日	令和8年4月23日（木）
調査内容	(1) 教科に関する調査 ・国語（13問） ・算数（16問） (2) 質問紙調査 ・生活習慣や学習環境に関する質問調査

【2】本校の結果について

本校の状況を正答数と京都府・全国の平均正答数との差で表します。

教科（問題数）	国語（13問）	算数（16問）
京都府の正答数	8.3	9.3
全国の正答数	7.9	9.0
美山小の正答数	8.1（同程度）	9.6（同程度）

本校と全国の 平均正答数の差	-2題		-1題	0題	1題	2題
	低い	やや低い		同程度	やや高い	高い

【3】学力について

国語の課題（全国平均と比較して正答率の低かった主な項目）

- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
- ・構成メモを工夫してまとめること
- ・説明に合った文章表現の効果を考えること
- ・互いの立場や意図を明確にしながらかし合い、自分の考えを伝えること

◎全国の平均と比較して概ね同程度であったが、文章の特徴を読み取ったり、読んで考えたことを自分の経験と結び付けて書いたりすることは正答率が高く、「話すこと・聞くこと」「書くこと」に課題がある。

算数の課題（全国平均と比較して正答率の低かった主な項目）

- ・示された場面を解釈し、目的に合った数の処理の仕方を考察すること
- ・単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解し、その商から混み具合を判断すること
- ・基にする量から、条件に合う比較量を求めること
- ・与えられた表を読み解き、必要な数量を見つけ出すこと

◎どの領域も全国平均と比較して概ね同程度であるが、「数と計算」領域、「データの活用領域」は正答率が高い。また、特に「図形」領域、「測定」領域、「変化と関係」領域についての正答率が低い。生活経験と重ねて考えたり、理由などを記述したりすることに課題がある。

【4】学習状況について

児童質問紙調査結果

<本校の傾向>

- ・地域や社会への関心や行事の参加など、地域との連携・協働に関わる項目について、肯定的な回答が全国平均を上回っている。
- ・自尊感情や人間関係に関わる項目について、肯定的な回答が全国平均を上回っている。また、将来への希望をもち、前向きに学習に取り組む姿勢も高い。
- ・ゲーム（携帯電話、スマートフォンを含む）をする時間は、全国平均よりも長い。
- ・人の役に立つ人間になりたい、人が困っているときに進んで助ける等、思いやりの意識が全国平均に比べるとやや高い傾向にある。

<全国集計値より低い項目>

- ・「朝食を毎日食べている」などの生活習慣に関わる項目でやや低い数値を示している。
- ・学校の勉強について家族と話すなど、家庭で学習の話をする機会が少ない傾向にある。

◎ 基本的な生活習慣は概ね身に付いているが就寝時刻が遅かったり、ゲームの時間が長くなったりしていることが懸念される。地域との連携・協働に関わる項目が高いことから、地域との結びつきが強く、ふるさとへの愛着があることが分かる。一方で、主体的に行動することに課題が見られる。学校生活に対して前向きに捉え、教師・友達とも良好な関係を築けていることから、社会の中でも主体的に行動できるよう指導の充実が必要である。

【5】学力課題克服に向けた方策

今回の結果分析を通して、本校児童の学力課題として挙げられる点について、以下の方策を講じ、課題の克服を目指しています。

<教科指導に関して>

- ・児童一人一人が自分に合った課題や方法で学習を進めること（セルフデザイン学習）を通してねらいが達成できるような授業展開を工夫する。

- ・各単元の最終到達目標を児童と共有し、それに対する振り返りを毎時間行うことで、自分の学びを評価し、計画的に学習に取り組んだり、学習内容や方法を検討したりしながら学習を進めることを習慣化する。
- ・複数教員の指導、支援体制による補充学習（がんばりタイム）や月末に到達すべき目標、課題を示し、誰一人取り残すことなくクリアを目指す取り組み（関門カモン DAY）を利用し、その単位ごとの内容がしっかりと身に着けられるまで、繰り返し学習を行う。また、決められた期日までに課題をやり切る習慣をつける。
- ・自分の考えを伝えるだけでなく、友達の考えを自分の言葉で言い換えたり、その考えを取り入れて学習を進めたりする機会をもつ。
- ・話し合い活動のねらいを明確化し、児童が自分事として課題を意識できるようにするとともに、考えや意見を述べたり、相手の考えや意見と自身のそれを比較させたりする学習活動を充実させる。
- ・ことばの力育成指導員や読書ボランティアと連携し、選書会を行ったり、全校児童が自分のおすすめの本を紹介したりする活動を通して、日常の読書量をさらに増やし、本に慣れ親しませるとともに、児童の語彙力を高める。
- ・日記や学習のまとめなどの文章を書く際に条件を与え、決められた条件に沿って文章を書く機会を設ける。
- ・言葉や式を用いて表現する指導を充実させ、情報を組み合わせることで解決の筋道を明らかにし、その上で言葉や式を使って説明できるように指導していく。
- ・日常生活での事象や、他の教科での場面を学習と結び付け、規則性や汎用性を見つける。

<家庭学習との連携>

- ・学習に向かう習慣作りを行い、課題をきちんとやり切り、基礎基本の力をつける。
- ・自主学習の取組を行い、自分の興味のある内容に計画的に取り組むことで、児童の主体性を伸ばし、学習意欲の向上を図る。
- ・AIドリルを使用し、自分の得意分野や苦手分野を中心に自分のペースで学習を進められるようにする。また、即時採点システムを利用し、間違った内容をすぐに修正する。